



『新築する住宅の暖房給湯の熱源は何がベストなのか』

吉田 幸恵 (室蘭支部)

設計する際施主から必ず出る質問の一つである。個人的な知見の中で書いていく。概ね灯油・電気・ガスの3種の中から検討するケースが多い。建設時コスト、ランニングコスト、ライフスタイル、CO₂排出量などの観点から選択すべきだが、求める暖かさやコスト面でこれが一番いいと決めかねることの方が多い。電気の場合、今冬は、ひと月の電気代が10万円を超える家庭も出たとのニュースも耳にした。これから新築するなら『ヒートポンプ給湯機+暖房エアコン』を採用すると大幅に電気代が削減されると期待され、安全性が他の熱源より高い。次にガスを熱源で考えた場合だが、電気代同様今冬のガス料金が例年の1.8倍になったとの声も聞こえてきた。ガスの場合は都市ガス・プロパン、契約する供給会社によっても価格が変動する。また電気とセットで申し込むなどの選択肢も増えた。エネファームが省エネ効果が高く、電気代も安くなるとのことで積極的に取り入れていきたいところだが、建設費の高騰で資材全体値上げしており、採用がなかなか難しく、ガスを効率的に利用するエコジョーズを採用するケースが多い。続いて石油熱源だが、設計業務を始めた当初は、FFストーブ+温水暖房の採用が多かった。効率が良く即暖性も高く、災

害時にも暖をとれるなどのメリットがある。一方で価格変動により毎年どの位の価格になるか不明というデメリットや環境負荷が他より高いというデメリットもある。

令和3年度北海道家庭用エネルギー消費実態調査(全道300世帯対象)によると暖房の80%が灯油、ついで40%が電気(複数回答)となっていた。

全道的に灯油を使用している家庭が多いという印象である。

個人的な話になるが、昨年9月に14年弱動いてくれていた我が家のボイラーが故障した。エコウィルというガスを燃料に発電し、排熱を利用してお湯を作るというものだった。結局ボイラーの部品不足で年明け2月までボイラー無しの生活を送った。暖房は石油ストーブを購入し、お風呂は銭湯通い。ガソリンスタンドで灯油を購入するのも家事を水で行うのも慣れてしまえば、苦にはならなかった。ガスの光熱費だが、エコウィルを利用していた時、2月が最も高くなる時期だったが、今年の2月は約7割程度に収まった。この実体験により端境期などには石油ファンヒーターを利用して、節約しようと思う。話を戻すが、結論から言うと、やはりどの熱源がベストかは、『乾燥が気になる、暖房費を抑えたい、空気を汚したくない、小さな子供やペットがいるので安全第一など』住む人のライフスタイル、ニーズに合ったものを適切にアドバイスでき、寄り添える体制を整えておく方がいいと思う。

『見学会兼勉強会』旭川市庁舎現場見学会に参加して

中田 富知子 (旭川支部)

1月11日(水) 9:00より講師は基本構想から携わっている久米設計の魚本氏でした。

参加者は旭川支部女性委員会10名、富良野支部1名、会員外1名の計12名の参加がありました。

最初の30分は、現場事務所の会議室を借りて、魚本氏より建築概要等の説明を受けました。

道外の設計事務所なので豪雪地帯ならではの対策が必要な建物は初めてで、風雪に対する知識も少ないことから北総研にご協力を頂き雪庇の出来方などシミュレーションを重ね対策を検討したお話しも聞けました。

現場に移動して上階から見学しました。下の階へ降りて行くにつれ、段々仕上がってきていました。完成が待ち遠しいですね。

議場(吹き抜け)の梁がアーチ状の集成材なのですが、そのために構造が一部木造となっていることや、内装制限のため集成材に石膏ボードを巻いてさらに木材を貼る仕上げにしたのだが、私としては「法律って〇〇」だと思いました。1時間半の見学でしたが、あっという間でした。現場はとて広く回りきれなかったのが、時間があればもっと見たかったです。

寒波のため現場は凄く寒かったです。現場担当者から取暖用のジェットヒーターに灯油を手運びすることを伺い、冬の現場の大変さを共有できました。

